平成 27 年度 第２回 二宮町まちづくり評価委員会議事要旨

開催日時		平成 28 年 3 月 15 日（火）　14:00～17:10
開催場所		二宮町役場　２階　第１会議室
主席者	委　員	出席 5 名、欠席 0 名
	その他	傍聴 0 名
	事務局	政策部４名
会議次第		１．開会 ２．議題 （１）政策評価に対する意見について （２）第５次二宮町総合計画前期基本計画における行政評価の意見書について （３）その他 ３．閉会

協議会委員出席名簿

No	氏名	所属	出欠	備考
1	小清水　謙太	公募	○	
2	脇　治	公募	○	
3	大野　和彦	公募	○	
4	野口　和雄	学識経験を有する者	○	
5	竹内　洋子	行政経験者	○	

議事概要

１　開会

２　議題

（１）政策評価に対する意見について

①生活の質の向上と定住人口の確保

②環境と風景が息づくまちづくり

③交通環境と防災対策の向上

④戦略的行政運営

（２）第５次二宮町総合計画前期基本計画における行政評価の意見書について

（３）その他

◎は会長、○は委員、●は事務局の発言

・議題（１）①生活の質の向上と定住人口の確保について

◎　文書の構成について修正が必要。

○　小さい町におけるスピードの良さとは。

○　移動の距離や情報の伝達のスピードで、大きい市などでは、多岐に分かれているため、情報の伝達スピードが遅くなると認識している。小さい町は、情報の伝達から返答までのスピードが早い。

○　生活の質の向上とは具体的に何を指しているか考えた際に、小さい子ども、働き盛りの現役世代、高齢者の方まで経済的にも生活、暮らしを支えてくれること、それをクリアすることによって達成していく。住民がコミュニケーションをしていく中で、社会的な価値としての学校、福祉、文化的なもの、その他に安全など、総合的な支援として背景にはいろいろな支えがあって生活の質が向上し、定住に繋がっていく。また、ソフト・ハードの融合が必要だが、形にしたときに最後にハートが入ってこないといけない。

◎　それぞれの質をどのように捉えるか。主観的なものや自主的なものがあり、ものさしとして一つ幸福度ということもあるが、交通や自然環境は評価しやすい。社会環境などが高いとかは指標が難しい。

○　生活をしていく上で、問題にぶつかり、不安なことを調べたときに町が何も対策を講じていなければ、この町は住めないと考えてしまう。対策を講じていて具体的なものが情報や施策として見えてくれば良い。

○　昔と違いスーパーで買い物をしてしまい、商店街で買物をしなくなってきていて、商店街にも魅力がなくなっている。魅力をあげて町民だから町内で買物をしたい。

●　生活に直結する、しないなど、個々の商店が置かれた状況により意識に差がある。

○　イベントを行っていても困っていない状況を感じていて、ハートがないところが多いと感じている。若い人ややる気のある人を取り込む必要がある。

◎　最近は、新たに参入している商店は増えてきている。全体としては活気がない。

●　過去に商店街へ再開発の提案をしたが、断られた経緯がある。

○　購買人口が少ないことも要因としてある。人が増えているところであれば投資をしたいと考えが思いつくがそうではない。

◎　この分野においては、福祉関係が多く、子育て世代が重要と位置付けている。

○　ＩＴふれあい館を有効活用したケースは評価できる。
○　定住人口の確保が必ずしも必要という訳ではない。人口が少なくてもやっている自治体はあり、財源を生み出す税金を多く支払う企業や商店、個人を増やすことが必要。
○　財源が少ない中の知恵で、あるものをどう活用していくかが大事であり、単体では限界があり、ネットワークを組み、そのネットワークの中から二宮町単体の力ではなく総合力をあげる。また、新しいものと今までやっているものをあわせて作っていくことで形がみえてくる。
◎　人口は減っていくことは明確だからあえて人口を増やすことを目指すのではなく、生活の質の向上を目標にしていくということ。
○　定住に捉われる必要はないと思う。これからの目標である。
○　人口流出には様々なケースがあり、生活に不便で出ていく、働く場所がなくて出ていくなどケースを捉え、そのマイナス要因をプラスに変える必要があり、変えているところは活気づいているところもある。前回議論したようにマイナス要因が視点を変えることによってプラスに転じるように考えることが必要。広域で取り組みを行いプラスに変えていくことが重要と考える。
◎　県内において相模川より西は人口減少しているが、開成町は増加している。二宮だけでなく広域のネットワークの中で対策が必要ということ。
○　高齢者の割合はどのようになっているか。
●　百合が丘、富士見が丘は高く、町の人口は自然減が多い傾向にある。
○　平地は高齢者の割合が低い。
○　富士見が丘などの高齢者は高度経済成長期に頑張って働いた人である。地域課題等を提起すれば協力してもらうことが可能だと思う。行政として東京は予算があるため動きやすい、地方においては危機感が高いため、団結力があり、住民も自主的にも活動している。神奈川県は特殊でどちらでもないため、住みなれた土地でと思う気持ちがあるが、より良い環境へ移動できる蓄えがある人が多くいるため知恵を出さないと出て行ってしまう。
○　若いころは車もあって生活に不便を感じず、通勤もしやすく感じていて自然も豊かで住みやすいと考えていたが、年を重ねることによって出来るものが出来なくなり、不便を感じてきている。上手く生きていこうという考えから、より良く生きていこうという考え方に変わってきた。
○　富士見が丘は当初、バスが通り、病院ができると宣伝を受けて住み始めたが、説明通りとならず、裏切られたと感じている人が多数いるようだ。最近出ていく人の話を聞くと、蓄えがあって町外へ移動できる人は若いうちに移動した方が新生活に慣れるので早い方良いということである。
○　高齢化と共に施設を利用できなくなってくる。地方において若いころ立派な家を建てた高齢者は売り、仕事面においては高齢者をケアする仕事を用意することで、高齢者は施設等に入るなど、仕組みをつくることで若い人の定住を促し、うまく融合して活性化しているところもある。
○　若い世代に魅力を感じてもらうことが必要である。
○　若い世代の人達が高齢化した時のビジョンを見せて、継続していく仕組みがないと衰退し

ていく。

○　小さな町のスピードの良さは一概には言えず、道路が整っているかというとそうでもなかったりする。意思決定の速さなど、スピード感がある施策をしていく必要があり、スピードアップの方法として規制緩和を検討する必要がある。お金はかからないため、様々な分野において積極的に規制緩和し、重要な地域に変換させる必要がある。具体的な策ではなく方向性を示す上で、規制を外して考えることが重要。

○　スピード感は重要と考える。町の規模に対して地区長や社会福祉協議会など様々な組織が細かく分かれすぎている。意思決定のスピードをあげるには多すぎると感じている。

○　規制緩和が必要と感じた経験があった。規制を外すことで活性化すると見込まれる箇所は存在している。

◎　施策について横断的に取り組むこと、組織が細かすぎることなどの意見があり、また、必ずしも人口増加だけに捉われてはいけないと意見があった。

　評価について確認をしたいが、政策として方向性は間違っていないが施策や取り組みを改善する余地は十分にあり、改善を主においてもらう表現に変更し、評価はＢとしたいがどうか。

○　改善を主に文書を表現するのであれば、Ｂ評価で構わない。

・議題（１）②環境と風景が息づくまちづくりについて

◎　観光などについてはなかなか手が見つからない。

○　町外の人をどう取り組むか、働きかけや仕掛けづくりをどうしていくか。

　企業ブランドにおいては、伝統を変更するには反対があるが変更によって大成功するケースがある。伝統を継続することは大切だが、市場においてはただ継続しているだけでは、潰れるケースが増えている。変更において、ただ変更するだけでなく、源をしっかり捉えていれば、枝分かれしてもいつでも原点に戻れるということが大事。同じものでも時代に合わせ、伝統の微修正を行っていく変更が必要ということ。今までの伝統をアンラーニングして新しいものと伝統を融合するサイクルを継続させていくことが重要。

◎　行政においては合意形成がつきまとい難関と感じている。９０％を捨てて１０％にかけられない中で、オリーブなどの取り組みをしてきたと思う。

○　真似事をすることはどこでもできる。こだわりや差別化が必要。真似事をしているところの衰退は早い。

●　町全体をブランド化としていたが、方向性を変え始めた。ブランドにおいては商品を主軸する方向にしていく。二宮といえばこれとイメージを図れるようにしていきたいと考えている。

○　ブランドのつながりが出てくると良い。例えば二宮町がオリーブとなり、商品と町が繋がることが大事。

○　ブランドとするにしても実力が伴っていないといけない。以前落花生が有名だったころは、周り近所も落花生を育てていた。本質的に特性がマッチしていないといけない。ブランドの継続性がなくなる。継続性において吾妻山はなくならないもの。菜の花で有名であるが、それ以外も対策を講じる必要がある。役場口の階段が大変で、中里ルートの開拓も必要と思う。

作戦はいろいろあるはず。

○　ブランドにおいては、商品だけでなく人であったり、文化であったり、芸術であったりがある、二宮ブランドは知らない人が多い。
●　町民への周知として西友やマックスバリューにおいて街頭説明などのきっかけはつくっているつもりだが、町内に知ってもらう機会がなく。浸透していない。ふるさと納税など町外への発信の強化をしている。
○　町民が理解し、町民がファンになることも重要となる。口コミによる発信はお金がかからない。良いものであれば告知してくれる。
○　地元産を知り合いに送りたいが送る物がない。宣伝ができない。
○　ブランドにおいては、コンセプトをしっかり伝えられるものでなければならない。なぜと聞かれた際に、答えられることが行政、町民、生産者全てに共通認識として必要である。
◎　ブランドにおいては物語性を語れることが大事ということ。
○　ブランドに関わる体験が増えている。商品だけでなくソフト面を含め、発展させた発想や方向転換が必要である。
○　文化が豊かと感じることがあった。ブランドをみんなで育てていく捉え方が必要で、ブランドを大事にしていくことに繋がる。何かできるまで提案していく必要がある。
◎　ブランド化はまだまだ時間がかかる。
○　農家において世代交代でやめてしまっている。辞める傾向が顕著に出ている。ある程度有名なものは、町単独だけでなく地域のブランドを広域で推進していくことも重要。
●　広域の取り組みとして小田原市や開成町など協同して湘南オリーブを作ろうとしている。
○　畑を借りても作り方がわからないため、農協などで育て方の指導をしてくれると取り組みやすいのではないか。
◎　ブランドに物語性を持たせることが必要と意見。民間・大学と連携。ブランドに特化することが必要と意見。
　評価について確認をしたいが、方向性として間違いではないが、施策を大幅に改善する必要があるとしてＣとしたいがどうか。
○　異論なし

・議題（１）③交通環境と防災対策の向上について
○　交通環境と防災対策の２つの項目をあわせた経緯を確認したい。
●　安全で快適で暮らしやすいまちづくりの考えからきている。
○　大規模な災害が想定されることから、防災対策は重要と考えている。町内において山側・海側で危険想定や度合が違い、考え方が変わってくる。地域ごとの防災計画は必要である。自分自身がどう動けばよいかわからなくなってきている。県における想定が示されたことで、わかりやすく、ひとりひとりの意識を高めることができたと思う。町の今後の予定はどうか。
●　地区防災計画の見直しやマニュアルの作成支援をする予定。
○　防災センターで出した東京都で出した冊子は参考になると思う。
◎　町は大雨前と後で見回りをしっかりやっていると聞いている。前回、交通環境において平

地のところは問題があまりないと議論があったが、新しい交通手段など、他に意見はないか。
○　自動運転の特区を作ってはどうか。
○　藤沢市は取り組みを進めているのではないか。
○　二宮町の特性を活かした坂などの地区限定で、電気自動車以外にゴルフカートなども考えられる。何かアドバルーンを上げてはどうか。施策としては効果的だと思う。
◎　交通手段の改良は日進月歩の為、うまく取り入れていく必要がある。
○　買物については循環バスを走らせることも必要で、企業との連携も考える必要がある。コンビニの配達も始まっていて、企業が待ちの姿勢は好ましくない。
○　一つの方法として買物については良いが、医療機関はどうするかという問題が残る。自身の近所の病院までの移動手段の確保が必要となる。
○　医者においても山間部の地方では訪問医療がある。買物も医療も町内全てではなく、エリア別に考える必要がある。
○　タクシー事業者においても顧客情報を捉え車両間において情報共有し、待ちの姿勢ではなくお客を捉える必要がある。
○　働いている人への交通環境としては、通勤の電車においてもスピードをあげる必要があり、快速アクティーを二宮駅に止める必要がある。
●　快速アクティーやライナーの二宮駅への停車はＪＲへ要望を行っています。全体としては乗客数が少ないため厳しいと回答がある。交通においては乗っていただかなければ衰退してしまう。
○　北口駅前は利便性が向上したと言えないのではないか。旧平塚ストアー前の横断歩道は危険があり、メインの広場はタクシーが占用しているように見えている。小学校側は駐車スペースがあるが、商店街から駅へ進入する車両について降車場所が分かりづらい。
◎　北口駅前は暫定整備と伺っている。本格整備は多額なお金が必要となるため、すぐに整備はできないと思われる。
○　駅前は場所がない。例えば町民会館をなくすことも考えてはどうか。
○　総合的に考える必要がある。介護予防においてイベント的単発の事業を行っているが、継続させるにしても集まれる場所がなく、公共施設があっても小さな集会場しかない。八方美人的にいろいろやるだけでなく継続性がないと介護予防に繋がらない。
◎　交通環境としては坂道が多いところについて、企業や民間と連携し、思い切って福祉施策として行う必要があるという意見。
○　外国人の表記は急に出てきてしまうため外した方が良いと思う。
○　福祉施策においては自ら動き選ぶということも必要なことを忘れてはならない。
◎　評価について確認をしたいが、方向性としては間違いでなく引き続き政策を推進の必要があることからＡとしたいがどうか。
○　異論なし

・議題（１）④戦略的行政運営について
◎　今までの議論においても出ているが、施策や取り組みに横断的に取り組む、優先順位をつける、選択と集中があがっている。優先度、マネジメントなど表現において単語が並べられ

ているので、今一度背景を確認していきたい。

○　コミュニケーション能力の向上とは、言葉のキャッチボールにおける投げたボールが返ってくることであり、野球に例えると、グローブがあり、ボールがあり、投げる前の段階から投げ方まで全て説明した上でないとキャッチボールができない。投げることになったとしても速さと位置を決められては投げることができないことが多い。行政に置き換えると投げてもらうためには、どこに投げてもキャッチする姿勢が行政は意見を受け取るという形としてあらわれる。これが投げやすさに変わることで、広く意見を聞くことができる。

行政が町民とキャッチボールする際は、返答先が決まっていて投げるだけ、説得される説明では成立しない。このようなケースは組織における上司と部下の関係では成立するが、上下関係ではない対等の関係においては、説明を十分に行い、考え方を共有できた上で、行うことが必要。説得される説明では不平不満しか生まない。どのように協力していくかが大事。行政と町民で町を組織していることから一つの会社として考えることができるが、民間と違い、様々な人がいるため説明を十分に行っても納得できない場合も多い。

できないものはできないと伝えることは必要であるが、プロセスや理由を明確に示すことが重要で、優先順位も含めてきちっと話す必要がある。

マネジメント能力において、行政組織内で求められていること、組織外で求められていることの捉え方にあって、専門用語ではなくわかりやすい説明ができることが大切である。提案においては、２つ、３つ提案することが必要で、一つしかないと一方通行となる。戦術と戦略を分ける必要があり、無駄なお金と必要経費をきちっと説明しなければ信用問題になる。

出来なかった内容について出来なかった理由について出来る術を行政と町民でそれぞれ知恵を出して解決していく。その働きかけが大事となってくる。

ＰＤＣＡサイクルをまわす必要があるが単体で行っているだけでは意味はなく。ＰとＤとＣとＡのつなぎつなぎをどのようにチェックするかが重要であって、サイクルを行っているのに進展しないのは、サイクルが平行又は下降している状況、上昇させるサイクルにしていくことが必要である。結果主義よりもプロセスが大事でプロセスが違っていれば結果が違ってくることもある。

●　行政改革として位置付けを行うが、現場に出た際に、選択と集中を迫られると判断がしづらい。意識として持ちつつ意識改革にあたっていきたい。

◎　戦略的行政運営は見えづらいため、評価が難しい。

○　アンケートと実際の声は違うことが多いため、現場に出て確認が必要。

戦略と戦術について、例えば、様々な山がある中で、3,000m級の山を登ることを決めるのは戦略となる。戦術はその山をどのような方法で登るか決めることで、上り方の違いであり、二宮町はどれを選択するのか。考え方がしっかりしていればどんな登り方でも良いと思う。

◎　行政をスリム化する、政策のマネジメントをしっかりやる、広域行政の幅を広げる、ブランドを総合力としてＰＲが強化、それぞれが具体化する段階で見えない。

○　具体化することによって長所、短所がわかってくる。短所を切り替える力があれば、マイナスをプラスに変えることができる。考え方を町民と共有することが必要。

○　行政内において専門分野との連携は必要で、行政内においてもコミュニケーションをとる必要がある。また、決められている業務の８割と残りの自由度の高い２割の部分について提

案型となるがこれしかできないと説明させる場面はあるか。

●　入り込む場面や説明を受ける場面がほとんどない。

○　アンケートで意見を吸い上げるだけでは生の声が入らない。意見が読み取れないため間違った認識を生む。

○　現場の生の声はしっかり受けとめなければならない。保健師等の専門職においては現場の声を吸い上げ、説明や訴える力をつけなければならないと思う。また、一般の人が分かるよう翻訳することも必要となっている。

◎　まさにコミュニケーション能力がそれぞれ必要ということ。

○　民間のクレーム対応において３現主義があり、現場、現品、現実があり、対応する職位によって視線が違い、対応のスピードが変わってくる。まずは、現場を理解することが重要。

○　行政においては、８割の決まり事をプロフェッショナルに行うことが重要で、その道の能力を高めることで、効率化に繋がる。民間企業以上の効率を考えることが必要。縦割りの縦の強化も重要。その道の強化のためには、効率をあげベースアップも見せていくことも必要。効率を上げる方法として、人間の処理には限界があるため、ＩＴ化を徹底的にすることも必要。

　８割以外の２割の仕事においてこれからどういう町にするかが大事。以前は農家が主体から時代と共に首都圏のベットタウンとなってきた。どのようなまちづくりかしっかりビジョンを見せていき、様々な角度から施策を打ち出すことが必要である。本項目の他にもう一本示すことも必要ではないか。

○　産後ケアセンターの検討も必要で企業誘致したらどうか。

◎　キーとなる取り組みをひとつふたつを提案することも必要。

○　見える化としての取り組みとして、ある病院においてクレームや要望について全て回答を含めて掲示している病院があった。クレームをオープンにするべき、そのような取り組みは参考になるかと思う。

　阪神淡路大震災の際に、神戸市は株式会社であるという考え方で取り組み、規制緩和をして変化に柔軟に対応していた。町においても柔軟に対応するため規制緩和を検討するべき。枠を取り外した考えを取り込むことで新たな施策が提案できる。

○　担当や現場から何が困っているか、意見があがってこなければ意味はない。意見や提案をしても取り入れる環境がなければならない。以前、町の対応で上が決めたことだから変えられないと言われた。変えられないことは残念に思う。本当に必要であれば班としてどうか、課としてどうかと対応することを考えた上で回答が必要ではないか。

◎　全体として深くするために、コミュケーション能力、説得だけではなく納得できる説明、共感が生まれるようなコミュニケーション、マネジメント、選択と集中、戦略的など、職員同士の会話、提案ひとつひとつを解決する職員は基礎力を上げる必要があるということ。

　評価について確認をしたいが、政策として妥当だが、より良くするため意見に合った言葉をしっかりと取り入れて推進が必要であることからＡとしたいがどうか。

○政策としては間違っていないが施策や取り組みに改善する余地は十分にあり、改善を主においてもらう表現に変更し、評価はＢとするべき。

○　異論なし

・議題（２）第５次二宮町総合計画前期基本計画における行政評価の意見書について

◎　本日の各委員から意見書の修正をして欲しい。

●　承知した。

以上